

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

熊本県における肝疾患コーディネーターの活動向上に向けた実態調査と支援 多職種連携を目指して

研究分担者：田中靖人
国立大学法人熊本大学 大学院生命科学研究部 消化器内科学講座 教授

研究要旨：【背景】熊本県では2015年より肝疾患コーディネーター（以下肝 Co）を養成している。これまで肝 Co を対象としたアンケート調査を実施し、抽出した問題点の改善に努めてきたが、2023 年のアンケート調査では、活動の継続のためには、不安解消、仲間づくりのための交流を進める必要性が示された。そこで、連携とくに多職種連携の実態を調査し、必要とされる支援を行った。【方法】熊本県内の肝 Co453 名を対象に、多職種連携についてのアンケート調査を行った。【結果】施設内における他職種との連携において、「できている」と回答したのは、18.0%であった。一方で、連携できていない理由としては、「他職種と話す機会がない」、「他職種の肝 Co を把握していない」「院内で活動する場がない」というものが多かった。そのため、施設内において肝 Co が連携を図るための第一歩として、定期的なミーティングや、肝炎対策の「予防」「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」の各ステップにおける職種毎の関わりと連携についてグループワークを行った。【考察】今後は、ミーティングやグループワークで提案された活動事例を実践するためのシステム構築に対する支援を行うことが必要である。

A. 研究目的

熊本県では、2015 年より、肝炎のみならず、肝疾患全般に対する調整者としての活動を目的とする肝疾患コーディネーター（以下、肝 Co）の養成を開始し、2024 年までに 931 名を認定した。3 年更新制を導入しており、現在の肝 Co は、603 名である（図 1）。

これまで、肝 Co に対して、2018 年、2019 年、2021 年に活動内容などについてのアンケート調査を行い、抽出された問題点の改善に努めてきたが、2023 年に活動意欲に関連する因子という観点から行ったアンケート調査では、活動実感を得る機会としての具体的な活動の場の提供のほかに、不安解消、仲間づくりのための交流を進める必要性が示された。

そこで、今回、連携とくに多職種連携の実態を調査した。

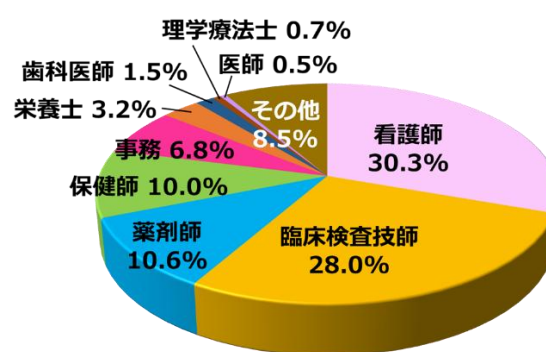


図1 職種別割合

B. 研究方法

熊本県内の肝 Co453 名を対象に、2024 年 4 月にメールを用いて無記名でアンケート調査を行った。

（倫理面への配慮）データは個人を特定できる属性情報を削除して用いているため、倫理面の問題はない。

C. 研究結果

50 名（11.0%）から回答を得た。施設内における他職種との連携において、「できている」と回答したのは、18.0%であった。職種別では、看護師 33.3%（4/12）、臨床検査技師 18.2%（2/11）、保健師 16.7%（1/6）、事務 16.7%（1/6）、薬剤師 0.0%（0/8）であった。施設内連携の事例としては、外来委員会や肝炎対策チーム会での情報共有が挙げられた。一方で、連携できていない理由としては、「他職種と話をする機会がない」、「他職種の肝 Co を把握していない」「院内で活動する場がない」というものが多かった。

そのため、施設内での連携を図ることを目的に、熊本大学病院では、2024 年 9 月より第 4 水曜にミーティングを開催し、肝臓病教室の立案や、肝 Co 活動支援サイト「肝 Co と仲間たち」における職種別活動ガイドや肝ペを参照し、職種の強みを活かした連携のあり方について検討を行うなどした。

また、熊本市内の中核病院において、多職種連携を行うにあたっての問題点を抽出し、肝炎対策の「予防」「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」の各ステップにおける職種毎の関わりと連携についてグループワークを行った。

さらに以前から求められていた活動の場の提供を継続し、以下の啓発イベントなどを開催した。

2024 年

7 月 14 日 肝疾患ならびに肝炎ウイルス検査受検勧奨のキャンペーン（肝臓週間）：熊本市内商業施設

- ・ くまモン（熊本県営業部長兼しあわせ部長）とともに、肝臓病教室（肝臓病の話、肝炎体操）
- ・ 簡易検査キットを用いた無料肝炎ウイ

ルス検査（①）

- ・ 専門医による無料相談（②）
- ・ 肝炎ウイルス検査・脂肪性肝疾患啓発のポケットティッシュ等の配布（③）
- ・ 血管年齢測定（④）
- ・ 肝臓病のパネル展示（⑤）

7 月 28 日 肝がん撲滅運動 市民公開講座：県下 6 会場

- ・ 上記①

11 月 4 日 あなたの肝臓大丈夫？：熊本市内商業施設

- ・ 上記①～⑤

2025 年

3 月 20 日 あなたの肝臓大丈夫？：熊本市内商業施設

- ・ 上記①～⑤

さらに、2024 年 9 月 29 日に実施した肝 Co 養成講座・研修会（新規養成者：109 名）では、講義による肝疾患全般に関する最新の知識習得とともに、肝炎患者体験談の聴講、「熊本県における肝 Co の多職種連携を目指して」をテーマにパネルディスカッションを行った。

また、2024 年 12 月 22 日に八代市で実施した肝 Co フォローアップ研修会では、「肝 Co としての役割を考える」をテーマにグループワークを行い、これまで肝 Co としてできた活動、できなかった活動とそれぞれの理由をディスカッションし、今後実践したいアクションプランの作成を行った。

これらのイベントや研修会の情報は、肝炎医療コーディネーター活動応援団（LINE）を活用し案内を行った。

D. 考察

今回のアンケート調査で、「他職種と話をする機会がない」、「他職種の肝 Co を把握していない」「院内で活動する場がない」などを理由に、多くの肝 Co が、施設内で他職種との連携ができていないことが明らかとなった。

そのため、施設内において肝 Co の定期的なミーティングの開催や、肝炎対策の「予防」「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」の各ステップにおける職種毎の関わりと連携についてグループワークを行う場を提供し、施設内の多職種連携のシステム構築に向けた第一歩とすることができた。今後は、ミーティングやグループワークで提案された活動事例を実践するための支援を行うことが必要である。

また、以前から求められている、活動実感を得る機会としての具体的な活動の場の提供も、施設内にとどまらない多職種連携の契機になりうるという観点からも、継続が必要と考える。

E. 結論

肝 Co の継続的な活動のための方策のひとつとして、多職種連携のシステム構築に対する支援を継続する。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

野村真希、瀬戸山博子、稲田浩気、長瀬博美、吉丸洋子、田中靖人 不顕性肝性脳症の早期診断のための定量的精神神経機能検査の支援 肝臓 65 巻 Suppl. Page A242. 2024

杉桜子、佐野美加子、怡土真理子、松浦由沙、山下昭一郎、井上有子、瀬戸山博子、田中靖人 他職種連携による肝炎ウイルス陽性者に対する予防からフォローアップまでの切れ目ない取り組み 肝臓 65 巻 Suppl.

Page A244. 2024

コロナ禍による活動制限が当院と県下の肝疾患コーディネーターの活動意欲に及ぼした変化の比較 服部可奈、畠山智美、杉桜子、井上有子、瀬戸山博子、田中靖人 肝臓 65 巻 Suppl. Page A258. 2024

肝炎医療コーディネーターの新たな挑戦 竹村侑紀、山下昭一郎、眞部正弘、山内露子、横山俊朗、山口和、野村真希、吉丸洋子、瀬戸山博子、田中靖人 肝臓 65 巻 Suppl. Page A264. 2024

今田龍市、小郷美紀生、野村真希、山下昭一郎、眞部正弘、赤星佑喜、吉田健一、新屋敷紀美代、田中信次、吉丸洋子、瀬戸山博子、田中靖人 肝臓 65 巻 Suppl. Page A278. 2024

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし